

講義科目名称： 日本国憲法

授業コード：

英文科目名称： Japanese Constitution

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(2-0)	選択必修科目
担当教員			
鈴間 淳一			
授業形態：講義	ナンバリング：英 SSS121601		ナンバリング：保 SSS111601
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか？本講義では、日本国憲法の基本原理を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標とします。</p>
授業の概要	<p>まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容について基本的な事項を解説します。そして、基本的人権を保障するための国の仕組み（統治機構）や平和主義について理解を進める予定です。 また、授業のなかでは、なかなか学生が接する機会が少ない法曹界についてや、法律入門的な内容も取り入れます。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、法学概論 ①授業の進め方、基本的なスタンスを説明する ②近代立憲主義の確立について基本的な知識を取得する ③明治憲法から日本国憲法への歴史的な流れについて基本的な知識を取得する ④場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第2回 近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ ①立憲主義について基本的な知識を取得する ②国民主権の原理について基本的な知識を取得する ③場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第3回 人権総論（人権の分類、新しい人権、外国人の人権） ①基本的人権の原理について基本的な知識を取得する ②人権の享有主体について基本的な知識を取得する ③幸福追求権、プライバシーの権利について基本的な知識を取得する ④教科書Part1Theme2「欲しいのはまず選挙権」Theme3「私の秘密」について検討する ⑤場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第4回 子どもの人権 ①基本的人権の限界について基本的な知識を取得する ②教科書Part1Theme1「子どもたちが拓く日本の未来」について検討する ③場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第5回 法の下での平等 ①法の下での平等について基本的な知識を取得する ②再婚禁止期間の問題、存続冊重罰規定の問題について検討する（教科書Part1Theme5、6） ③場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第6回 精神的自由権①内心の自由 ①内心の自由（思想良心の自由、信教の自由、学問の自由）について基本的な知識を取得する ②信教の自由について教科書Part1Theme7を検討する ③場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第7回 精神的自由権②表現の自由 ①表現の自由（表現の自由の価値、表現の自由と知る権利、アクセス権）について基本的な知識を取得する ②表現の自由の内容、限界についての基本的な知識を取得する ③教科書Part1Theme8を検討する ④場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第8回 精神的自由権③検閲の禁止 ①検閲の禁止についての基本的な知識を取得する ②教科書Part1Theme9を検討する ③場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第9回 経済的自由権 ①経済的自由権（職業選択の自由、居住移転の自由、財産権の保障）の基本的な知識を取得する ②教科書Part1Theme10を検討する ③場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第10回 社会権 ①社会権（生存権、教育を受ける権利、労働基本権）の基本的な知識を取得する ②教科書Part1Theme11、12を検討する ③場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第11回 その他の人権、まとめ ①人身の自由についての基本的な知識を取得する ②国務請求権と参政権について基本的な知識を取得する ③教科書Part1Theme13について検討する ④場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する</p> <p>第12回 統治総論、国会、内閣 ①権力分立の原理について基本的な知識を取得する ②国会及び内閣について基本的な知識を取得する ③教科書Part2Theme16、17、18について検討する</p>

	<p>第13回 ④場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する 司法</p> <p>第14回 ①司法権の意味と範囲、裁判所の組織と権能、司法権の独立について基本的な知識を取得する ②教科書Theme19を検討する ③場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する 憲法の保障</p> <p>第15回 ①違憲審査制、憲法改正の手續と限界について基本的な知識を取得する ②教科書Theme20、22を検討する ③場合によっては、基本的な知識確認用の小テストを講義の最後に実施する 平和主義、まとめ</p> <p>第16回 ①平和主義の原理について基本的な知識を取得する ②教科書Part2Theme15を検討する ③憲法の基本原理（立憲主義、国民主権）についての再確認を行う まとめ 期末試験 択一式問題、穴埋め問題、小論文により知識の確認を行う。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input checked="" type="checkbox"/></p>
テキスト	初宿正典他著『いちばんやさしい憲法入門第5版』有斐閣アルマシリーズ（有斐閣）
参考書	芦辺信喜、高橋和之補訂『憲法第六版』（岩波書店）
評価方法	期末試験の結果：60% 小テスト：20% 授業態度：20% などから総合的に評価する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p><input type="checkbox"/> 1. 建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身につける意欲をもつ。</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 情報化社会に対応するために、高い倫理性を備えた情報機器の操作能力を習得する。</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学等の基礎的な教養を習得することで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばす意欲をもつ。</p>
履修上の注意	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	小テストについては、採点后返却をする。

	<p>事故を想定した体育・スポーツイベントを開催するにあたっての計画を作成する（グループワークと発表）</p> <p>【事前学習】新聞等で取り上げられるスポーツにおける重傷事故について調べる。 【事後学習】講義内容をまとめ、レポートとして提出すること。</p> <p>第9回 応急処置 外傷に対するRICE処置と緊急時の一次救命処置（胸骨圧迫とAEDの使い方の実際）</p> <p>【事前学習】スマホアプリから応急処置に関連するものについて調べる。 【事後学習】講義内容をまとめ、レポートとして提出すること。 応急処置に関連するスマホアプリを調べ、課題提出する。</p> <p>第10回 普通救命講習 e-learningを用いてBLS（一次救命処置）の基礎知識を学ぶ</p> <p>【事前学習】応急手当講習会について調べる。 【事後学習】講義内容をまとめ、レポートとして提出すること。 1分間に100回のリズムの曲を調べ、課題提出する</p> <p>第11回 熱中症は自分で防ぐ 水分補給と食事について考える</p> <p>【事前学習】冬の熱中症について調べる。 【事後学習】講義内容をまとめ、レポートとして提出すること。 コンビニやスーパーを使って食事メニューを考え、課題提出する。</p> <p>第12回 ユニバーサルスポーツ① 障がい者スポーツ 障がい者スポーツの定義と東京オリンピック・パラリンピックの関係</p> <p>【事前学習】障がい者スポーツのイメージについてまとめる。 【事後学習】講義内容をまとめ、レポートとして提出すること。</p> <p>第13回 ユニバーサルスポーツ② 生涯スポーツ 生涯スポーツの考え方 グループワークにより、子ども向けの新しいユニバーサルスポーツを考案する。</p> <p>【事前学習】ユニバーサルスポーツのイメージについてまとめる。 【事後学習】講義内容をまとめ、レポートとして提出すること。</p> <p>第14回 ユニバーサルスポーツ？ 生涯スポーツの発表 自分たちが考案したユニバーサルスポーツ・生涯スポーツをお互いに発表し、実践する</p> <p>【事前学習】スムーズなプレゼンテーションができるように準備する。 【事後学習】講義内容をまとめ、レポートとして提出すること。</p> <p>第15回 まとめ この講義で学んだことの振り返り 提出された課題（第10回、第11回）に対するまとめ 生涯スポーツ実践の振り返りとまとめ</p> <p>【事前学習】今まで学習した内容について、質問事項等まとめる。 【事後学習】講義内容をまとめ、レポートとして提出すること。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	テキストは使用しない。講義ごとに適宜資料を配布する。
参考書	<p>①目で見える動きの解剖学—スポーツにおける運動と身体メカニズム—（ロルフ・ヴィルヘード著、大修館書店、1994年版、2600円程度）</p> <p>②基礎運動学 第6版 補訂（中村隆一・齊藤宏・長崎浩著、医歯薬出版、2012年、7400円程度）</p>
評価方法	<p>①期末試験（60%）</p> <p>②毎回の講義終了時に提出する簡単な課題（15%）</p> <p>ポート課題（15%）</p> <p>④グループワーク・課題の発表（10%）</p> <p style="text-align: right;">③レ</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身につける意欲をもつ。</p> <p>【 】2. 情報化社会に対応するために、高い倫理性を備えた情報機器の操作能力を習得する。</p> <p>【 】3. 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学等の基礎的な教養を習得することで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばす意欲をもつ。</p>

履修上の注意	講義中に体を動かすことがあります。事前にお知らせいたしますが、運動に適した服装で出席してください。
オフィスアワー	在学時間（授業時間及び前後30分）
課題に対する フィードバック方法	レポートは、確認後講義中に返却します。 課題は、最終講義にてフィードバックいたします。

講義科目名称： 体育実技

授業コード：

英文科目名称： Physical Education (Sports)

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1～2年	1単位(0-3)	選択必修科目
担当教員			
音野太志・喜屋武享			
授業形態：実技	ナンバリング：英 PHY121702		ナンバリング：保 PHY111702
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1) スポーツの楽しさ、喜びを味わうことができる。 2) スポーツに対して、「真剣に」「コミュニケーションを図りながら」実践することを通し、諸課題を解決しながら、個人またはグループの成長プロセスに介入できるようになる。
授業の概要	ドッジビー、ソフトバレーボール、インディアカをとりあげる。毎授業では練習と試合を実施する。個人とグループの諸課題について、1)実践 2)ふりかえり 3)次の課題設定 4)実践というプロセスを繰り返すことによって、個人またはグループの成長プロセスを考える機会とする。
授業計画	<p>第1回 コースオリエンテーション(授業概要、目標、成績評価方法、等) 講義の進め方、注意点、評価方法等の説明を行う。 初回のアイスブレイクとして、全員で楽しめるスポーツを行う。 【事前学習】体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>第2回 ソフトバレーボール：練習、ゲーム 前半はグループに別れて練習を行う。 後半は、楽しめるようにルール変更した状態でゲームを行う。 【事前学習】体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>第3回 ソフトバレーボール：練習、ゲーム 前半はグループに分かれて練習を行う。 後半は、前回より若干難易度をあげてゲームを行う。 【事前学習】体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>第4回 ソフトバレーボール：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、評価対象となるリーグ選を行う。 【事前学習】体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>第5回 ソフトバレーボール：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。 【事前学習】体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>第6回 インディアカ：練習、ゲーム 前半はグループに別れて練習を行う。 後半は、楽しめるようにルール変更した状態でゲームを行う。 【事前学習】体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>第7回 インディアカ：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、評価対象となるリーグ選を行う。 【事前学習】体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>第8回 インディアカ：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。 【事前学習】体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>第9回 ドッジビー：練習、ゲーム 前半はグループに別れて練習を行う。 後半は、ドッジビーに慣れる様、簡易的なゲームを行う。 【事前学習】体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>第10回 ドッジビー：練習、ゲーム 前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、評価対象となるリーグ選を行う。</p>

第11回	<p>【事前学習】 体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】 体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>ドッジビー：練習、ゲーム</p> <p>前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。</p>
第12回	<p>【事前学習】 体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】 体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム</p> <p>前半はグループに別れて練習を行う。 後半は、ゲームを理解するために練習試合を行う。</p>
第13回	<p>【事前学習】 体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】 体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム</p> <p>前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、評価対象となるリーグ選を行う。</p>
第14回	<p>【事前学習】 体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】 体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム</p> <p>前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。</p>
第15回	<p>【事前学習】 体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】 体のケアを行い、次の講義に備える</p> <p>ドッジビー：アルティメット、練習、ゲーム</p> <p>前半はグループ毎に練習を行う。 後半は、前回の続きとして評価対象となるリーグ戦を行う。</p>
	<p>【事前学習】 体調を整え、運動に適した状態で講義に臨む 【事後学習】 体のケアを行い、次の講義に備える</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法	授業への参加度60点 実技評価40点 計100点による。実技評価は、各種目のゲーム結果とする。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — ：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身につける意欲をもつ。</p> <p>【 】 2. 情報化社会に対応するために、高い倫理性を備えた情報機器の操作能力を習得する。</p> <p>【 】 3. 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学等の基礎的な教養を習得することで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばす意欲をもつ。</p>
履修上の注意	<p>1) 体育館用のシューズを準備し、運動にふさわしいウェアで参加すること。</p> <p>2) 金属製のピアス、ネックレス、プレスレット等、人を傷つけ、傷つけられる恐れのあるモノは外すこと。</p> <p>3) その他の注意事項は初回授業時に伝達する。</p>
オフィスアワー	音 野：授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	授業中にプレーに対してのアドバイスを行う。

講義科目名称： 基礎英語コミュニケーション

授業コード：

英文科目名称： Basic English Communication

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
Michael Hertz			
授業形態：演習	ナンバリング：FLS111903		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>The objective of this class is to develop English communication skills increasingly necessary in today's preschool/kindergarten working environments. Students wishing to study abroad will also gain valuable knowledge in preparation for their foreign experience trip. Basic medical English is also covered in the class.</p> <p>今日の保育園や幼稚園でますます必要とされる英語でのコミュニケーションの習得と、海外留学を希望する学生にとって役立つ知識の習得を目標とする。</p>		
授業の概要	<p>Everyone will be expected to participate in simple skits, songs, games and lectures, etc. to improve their skills and confidence. This class is designed to be fun, energetic and can work as steppingstone for building in childcare.</p> <p>簡単なスキット(寸劇)、童謡の合唱、ゲームや講義を通して、学生の能力を向上させ、自信をつける。楽しく活発なクラスになるよう計画されており、保育でのキャリアを構築する為の踏み台ともなりうる。</p>		
授業計画	第1回	Learn common pre-school/kindergarten English vocabulary (保育園や幼稚園でよく使われる英語の語彙を学習する)	
	第2回	Play popular games used to develop English use and comprehension (定番のゲームを行い、英語を使用・理解する力を身につける)	
	第3回	Break down game structures to identify key learning points (ゲームの構成を噛み砕いて説明し、ゲームから得られる教訓を理解する)	
	第4回	Learn and participate in children's songs (童謡を学び、実際に合唱する)	
	第5回	Learn and participate in children's dances (児童向けのダンスを学び、練習する)	
	第6回	Fun with verbal and non-verbal skills development (楽しみながら、言語的・非言語的なスキルを構築する)	
	第7回	Participate in simple skits (簡単なスキット(寸劇)に参加する)	
	第8回	Read children's books aloud and discuss deeper messages (絵本の読み聞かせをし、絵本に隠された趣旨を読み取る)	
	第9回	Lecture, Classroom management techniques: Motivational (良い例から、授業の進め方・児童の扱い方を学ぶ)	
	第10回	Lecture, Classroom management techniques: Destructive (悪い例から、授業の進め方・児童の扱い方を考える)	
	第11回	Participate in group activities (グループワークに取り組む)	
	第12回	Practice and develop basic English pronunciation skills (基本的な英語の発音を学び、練習する)	
	第13回	Arts and Crafts (図画工作(詳細は未定))	
	第14回	Travel abroad and Medical Vocabularies (海外渡航に備える)	
	第15回	Inspiring students to succeed through praise (児童を褒めるテクニックについて学ぶ)	
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【 】</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 【 】</p>		

	3) ICTの活用 4) 初年次教育	{ }
テキスト	追加で連絡がない限り、必要に応じて講義担当者が準備・配布する。	
参考書	特になし	
評価方法	講義参加度（態度、プレゼンテーション等）、個人およびグループワークを総合的に評価する。	
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：試験欠席・レポート未提出・出席不足	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. 建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身につける意欲をもつ。 【 】 2. 情報化社会に対応するために、高い倫理性を備えた情報機器の操作能力を習得する。 【○】 3. 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学等の基礎的な教養を習得することで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばす意欲をもつ。	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスへの参加が最も重要視されるので、欠席しないように。 ・グループや個人での発表は積極的に取り組むこと。 ・正当な理由以外での欠席は認められません。よってそれ以外の欠席は届けなくてもよい。（公欠のみ提出） ・出席状況については各自で確認すること。 	
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。	
課題に対するフィードバック方法	.	

講義科目名称： 実用英語コミュニケーション

授業コード：

英文科目名称： Practical English Communication

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
Michael Hertz			
授業形態：演習	ナンバリング：FLS111904		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	今日ますます必要とされる英語コミュニケーションスキルの習得、それから、初級英語の習得・海外留学・様々な場面や保育を含む幅広い業界で使用される会話スキルの習得を志す学生に役立つ知識と見識の構築を目標とする。
授業の概要	学生は、英語の言語能力と理解力をつけ、自信を高める為に様々なアクティビティや講義に参加する。次学期以降の履修クラスに必要なスキルの習得に重点をおいた楽しく啓発的なクラスである。
授業計画	<p>第1回 言葉やボディランゲージでのコミュニケーションスキルの構築</p> <p>第2回 会話に必要なボキャブラリーの学習</p> <p>第3回 仕事で求められるボキャブラリーの学習</p> <p>第4回 発音の土台を構築</p> <p>第5回 様々な状況で使えるフレーズの練習</p> <p>第6回 定番ゲームを使った英語理解</p> <p>第7回 英語使用に対する自信の構築とそれに伴う達成感や成功体験</p> <p>第8回 自分に打ち勝つこと、モチベーションを高めること。</p> <p>第9回 成功に向けてプレッシャーや壁を突破：やりたいことVSやるべきこと</p> <p>第10回 アルバイトの面接の質疑応答対策</p> <p>第11回 英語での数字の読み方を練習</p> <p>第12回 簡単なスキット(寸劇)への参加</p> <p>第13回 簡単な歌やダンスの体験</p> <p>第14回 道案内のしかた</p> <p>第15回 海外旅行・留学に欠かせない単語</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【 】</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 【 】</p> <p>3) ICTの活用 【 】</p> <p>4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	追加で連絡がない限り、必要に応じて講義担当者が準備・配布する。
参考書	特になし
評価方法	講義参加度(態度、プレゼンテーション等)、個人・グループ課題を総合的に評価する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) - : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身につける意欲をもつ。</p> <p>【 】2. 情報化社会に対応するために、高い倫理性を備えた情報機器の操作能力を習得する。</p> <p>【 】3. 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学等の基礎的な教養を習得することで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばす意欲をもつ。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスへの参加が最も重要視されるので、欠席しないように。 ・グループや個人での発表は積極的に取り組むこと。 ・正当な理由以外での欠席は認められません。よってそれ以外の欠席は届けなくてもよい。(公欠のみ提出) ・出席状況については各自で確認すること。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	.

講義科目名称： 中国語

授業コード：

英文科目名称： Chinese

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
武村 朝吉			
授業形態：演習	ナンバリング：FLS112902		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 初級中国語の習得。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音と声調コントロールの基礎を修得することができる。また、基本的な文法事項を理解（36個の文型）し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と会話ができるレベルを目標とする。</p>
授業の概要	<p>中国語のピン音（発音記号）の概要を説明するとともに、個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習を行う。それに引き続き、基本的な文法事項を学習し、その応用として、会話練習、作文練習を行う。</p> <p>予習：授業内容を事前に目を通しておくこと。 復習：ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。多く音読練習をすること。</p>
授業計画	<p>第1回 授業概要の説明。中国語の発音（1）。 授業の進め方、評価の基準についての説明。中国語の子音・母音の発音の仕方。 【事前学習】 特になし。 【事後学習】 CDを聞きながら、発音練習を多く行う。</p> <p>第2回 中国語の発音（2）。中国語の声調（1）。 有気音と無気音の発音の仕方。巻舌音の発音の仕方等。中国語の声調のコントロールについての説明。 【事前学習】 特になし。 【事後学習】 CDを聞きながら、発音・声調コントロールの練習を多く行う。</p> <p>第3回 第1課：中国語の声調（2）。形容詞述語文（1）。疑問文。 中国語の声調コントロールの練習。いろいろな形容詞述語文。“？”を用いた疑問文。 【事前学習】 第1課の文法事項に目を通しておく。 【事後学習】 第1課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第4回 第2課：形容詞述語文（2）。基数。 いろいろな形容詞述語文。数字の数え方（1～10）。第2課の会話。 【事前学習】 第2課の文法事項に目を通しておく。 【事後学習】 第1～2課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第5回 第2課：練習。 入れ替え練習。数字の数え方（1～31）。日付表現の練習。 【事前学習】 第2課の文法事項に目を通し、練習をやってみる。 【事後学習】 第1～2課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第6回 第3課：肯定文と否定文。 肯定文と否定文の作り方。“？”を用いた疑問文。第3課の会話。 【事前学習】 第3課の文法事項に目を通しておく。 【事後学習】 第1～3課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第7回 第3課：練習。 入れ替え練習。月・年の言い方。 【事前学習】 第3課の文法事項に目を通し、練習をやってみる。 【事後学習】 第1～3課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第8回 第4課：自己紹介の仕方など。動詞「是」。 自己紹介の仕方、相手の名前の訊き方。動詞「是」の使い方。第4課の会話。 【事前学習】 第4課の文法事項に目を通しておく。 【事後学習】 第1～4課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第9回 第4課：練習。 入れ替え練習。国籍の言い方。 【事前学習】 第4課の文法事項に目を通し、練習をやってみる。 【事後学習】 第1～4課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第10回 第5課：疑問詞を用いた疑問文。動詞「在」。中間試験。 いろいろな疑問詞を用いた疑問文。動詞「在」の使い方。第5課の会話。中間試験。 【事前学習】 第5課の文法事項に目を通しておく。第1～4課の復習。 【事後学習】 第1～5課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第11回 第5課：中間試験解説。練習。 中間試験解説。入れ替え練習。「ちょっと～します。」「あなたはどこへ行きますか？」。</p>

第12回	<p>【事前学習】 第5課の文法事項に目を通し、練習をやってみる。 【事後学習】 第1～5課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第6課：名詞述語文。時間副詞。誘い方。 いろいろな名詞述語文。「夜あなたは何をしますか?」。「～するのはどうですか?」。第6課の会話。</p>
第13回	<p>【事前学習】 第6課の文法事項に目を通しておく。 【事後学習】 第1～6課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第6課：練習。 入れ替え練習。「明日は何曜日ですか?」「午後彼の家へ彼に会いに行きます。」。</p>
第14回	<p>【事前学習】 第6課の文法事項に目を通し、練習をやってみる。 【事後学習】 第1～6課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第7課：「動詞+目的語」構造。「動詞+介詞+目的語」構造。文末の「了」。 「動詞+目的語」「動詞+介詞+目的語」構造の用いられ方。語気助詞「了」の文法的意味。第7課の会話。</p>
第15回	<p>【事前学習】 第7課の文法事項に目を通しておく。 【事後学習】 第1～7課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第7課：練習。 入れ替え練習。「(どこどこ)で(何々を)します。」「あなたは(兄弟姉妹)がいますか?」</p>
第16回	<p>【事前学習】 第7課の文法事項に目を通し、練習をやってみる。 【事後学習】 第1～7課の文法と意味を再確認し多く音読練習を行う。</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【 】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	『漢語会話301句』康玉華・来思平著作，語文研究社
参考書	中日辞典など
評価方法	中間試験及び期末試験80% 授業参加度・発表20%。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身につける意欲をもつ。 【 】2. 情報化社会に対応するために、高い倫理性を備えた情報機器の操作能力を習得する。 【 】3. 専門領域の学びを支える「コア科目」(キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー)をはじめ、人文科学、社会科学等の基礎的な教養を習得することで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばす意欲をもつ。</p>
履修上の注意	相互(学生⇄教師, 学生⇄学生)の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 武村研究室
課題に対するフィードバック方法	授業中逐次フィードバックする。

講義科目名称： 韓国語

授業コード：

英文科目名称： Korean

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
李 春花			
授業形態：演習	ナンバリング：FLS112903		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>韓国語の基礎と韓国文化へのアプローチ</p> <p>知識・理解：ハングル文字の仕組みと優しい日常会話の簡単な文法について説明し、正確な音読と書きができる。 技能表現：自己紹介などの簡単な会話能力を身に着ける。 態度：グローバルな視点を養い、将来様々な形で国際的交流に協調できる、専門性・責任意識を持てる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、ハングル文字の仕組みと優しい日常会話の簡単な文法について理解し、正確な文字の音読と書きを修得する。また初めての学習者でもわかりやすくDVDやICTの活用により、韓国の歌やドラマ及び映画などを通じて韓国語のみならず韓国の文化と歴史を楽しめる。さらに異文化コミュニケーションの取り方とグローバルな視野を身に着け、21世紀の地域やグローバル世界に様々な形で協調できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／韓国を知る・ことばの特徴・ハングル文字 韓国を知るDVD『子犬の糞』の鑑賞を行う。韓国の歴史と文化と共に歩んできた韓国語のことばの特徴・ハングル文字の背景と仕組みについての紹介を行う。</p> <p>【事前学習】授業前2時間、テキストpp. ix-xiの韓国語のことばの特徴・ハングル文字の背景と仕組みについて調べる。 【事後学習】授業後2時間、韓国語のことばの特徴・ハングル文字の背景と仕組みについての理解・知識を習得する。</p> <p>第2回 テキスト第1課 簡単な挨拶表現／文法—基本母音／歌の学習 簡単な挨拶表現の会話文と一般的な自己紹介の仕方や、《ハムニダ体とヘヨ体の違い》について紹介し、その会話文の発音の練習を行う。ハングル文字の基本母音の文字8つとその音価の読み書きについての文法の説明を行い、発音の練習を行う。韓国の歌『アリラン』、『熊三匹』、『君は愛されるために生まれた』のMVを紹介し、韓国語で歌う練習を行う。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、テキストpp. 2-3のskit, p. 4の基本母音とその単語をテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。 【事後学習】授業後3時間、テキストpp. 2-3のskit, p. 4の基本母音とその単語を発音しながら正確に書き写す課題を出し、次回の小テストに備える。韓国文化についての主題例から一つ選んで、異文化コミュニケーションへの提言文を書くために資料を集める。</p> <p>第3回 テキスト第2課 初対面の挨拶表現／文法—基本子音・や行母音 初対面の挨拶表現の会話文や《敬語の遣い分け》についての歴史的文化的背景の紹介を行い、その会話文の発音練習を行う。ハングル文字の基本子音9つの文字、その名称や発音の音価と、母音（や行音）6つの文字とその発音の音価の読み書きについての文法の説明を行い、発音の練習を行う。K-popのMVを紹介を行う。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、テキストpp. 8-9のskit, pp. 10-11の基本子音と母音（や行音）とその単語をテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。 【事後学習】授業後3時間、テキストpp. 8-9のskit, pp. 10-11の基本母音とその単語を発音しながら正確に書き写す課題を出し、次回の小テストに備える。韓国文化についての主題例から一つ選んで、異文化コミュニケーションへの提言文を書くためにメモしながらクリティカル・シンキングをする。</p> <p>第4回 テキスト第3課 別れの挨拶表現／文法—子音（激音と濃音）・わ行母音 「立ち去る人」と「居残る人」に遣い分ける別れの挨拶表現の会話文や、《日本語話者にとって語彙を増やしやす漢字語》についての紹介を行い、その会話文と単語の発音の練習を行う。ハングル文字の子音（激音5つと濃音5つ）の文字、その発音の音価や名称と、母音（わ行音）7つの文字、その発音の音価と読み書きについての文法の説明を行い、発音の練習を行う。K-popのMVを紹介を行う。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、テキストpp. 14-15のskit, p. 15のpoint, pp. 16-17の子音（激音と濃音）と母音（わ行音）とその単語をテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。 【事後学習】授業後3時間、テキストpp. 14-15のskit, p. 15のpoint, pp. 16-17の子音（激音と濃音）と母音（わ行音）とその単語を発音しながら正確に書き写す課題を出し、次回の小テストに備える。 韓国文化についての主題例から一つ選んで、クリティカル・シンキングによる異文化コミュニケーションへの提言文を書き提出する。</p> <p>第5回 テキスト第4課 感謝の挨拶表現／文法—終声(パッチム) 感謝の挨拶表現の会話文や《日常でよく使う単語》についての紹介を行い、その会話文と単語の発音の練習を行う。ハングル文字の子音の代表終声（パッチム）の7つの文字、その発音の音価や名称の読み書きについての文法の説明を行い、発音の練習を行う。K-popのMVを紹介を行う。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、テキストpp. 20-21のskit, p. 21のpoint, pp. 22-23の子音の代表終声（パッチム）とその単語、p24の単語をテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。 【事後学習】授業後3時間、テキストpp. 20-21のskit, p. 21のpoint, pp. 22-23の子音の代表終声（パッチム）とその単語、p24の単語を発音しながら正確に書き写す課題を出し、次回の小テストに備える。韓国文化についての主題例から一つ選んで、クリティカル・シンキングによる異文</p>

第6回	<p>化コミュニケーションへの提言文を書き、当日まで（e-mail当日有効）提出する。</p> <p>テキスト第5課 謝罪の挨拶表現／文法—発音の変化</p> <p>謝罪の挨拶表現の会話文についての紹介を行い、その会話文の発音の練習を行う。ハングル文字の発音変化の規則8つ（有声音化、連音化、濃音化、激音化、鼻音化、ヒウt弱化、流音化、ニウn挿入）についての文法の説明を行い、その用例の単語の発音の練習を行う。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、テキストpp. 26-27のskit, p. 27のpoint, pp. 28-30の発音変化の規則にある単語をテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。</p> <p>【事後学習】授業後3時間、テキストpp. 26-27のskit, p. 27のpoint, pp. 28-30の発音変化の規則にある単語を発音しながら正確に書き写す課題を出し、発音変化の規則について理解を深める。</p>
第7回	<p>テキスト第6課 自己紹介の会話／指定詞のハムニダ体とヘヨ体</p> <p>プリント配分の初対面の挨拶表現と自己紹介をまとめた会話文や、《ハングルによる日本語表記法》についての紹介を行い、その会話文と単語の発音の練習を行う。その会話文に基づいて指定詞（～だ）のハムニダ体とヘヨ体の平叙形（～です）と疑問形（～ですか）などの文法についての説明を行う。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、テキストpp. 32-33のskitをテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。</p> <p>【事後学習】授業後3時間、テキストp. 31の《ハングルによる日本語表記法》とプリント配分の《初対面の挨拶表現と自己紹介をまとめた会話文》を正確に音読しながら、書き写し、テキストp. 36の練習問題を解答して課題を提出する。</p>
第8回	<p>テキスト第7課 お住まいの会話／指定詞の否定形のハムニダ体とヘヨ体／学生のレポート発表&意見交換1</p> <p>プリント配分のまとめの配分のお住まいの会話文や疑問詞6つの用例についての紹介を行い、その会話文と用例の発音の練習を行う。その会話文に基づいて指定詞の否定形（～ではない）のハムニダ体とヘヨ体の平叙形（～です）と疑問形（～ですか）などの文法や、《分かち書き》についての説明を行う。学生によるレポート発表とその主題についての感想や意見を述べてもらう。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、テキストpp. 38-39のskit, p. 39のpointをテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。</p> <p>【事後学習】授業後3時間、テキストp. 39のpointとプリント配分の《お住まいの会話文》を正確に音読しながら、書き写し、テキストp. 42の練習問題を解答して課題を提出する。</p>
第9回	<p>テキスト第8課 趣味の会話表現／形容詞や動詞のハムニダ体（改まりの上称形）、学生のレポート発表&意見交換2</p> <p>プリント配分の趣味の会話文や《趣味をあらわす単語》について紹介し、その会話文と単語の発音の練習を行う。その会話文に基づいて形容詞や動詞のハムニダ体（～です／～ます）の平叙形（～です）と疑問形（～ですか）などの文法や《姓名と人名表記》についての説明を行う。学生によるレポート発表とその主題についての感想や意見を述べてもらう。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、テキストpp. 44-45のskit, p. 45のpointをテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。</p> <p>【事後学習】授業後3時間、テキストp. 45のpointとプリント配分の《趣味の会話文や趣味をあらわす単語》を正確に音読しながら、書き写し、テキストp. 48-49の練習問題を解答して課題を提出する。</p>
第10回	<p>テキスト第9課 まとめのお話表現（1）／漢数字の用例／学生のレポート発表&意見交換3</p> <p>プリント配分の《まとめのお話表現（1）》について紹介し、その会話文の発音の練習を行う。《漢数詞やその教え方などの用例》についての説明を行う。韓流ドラマの紹介を行う。学生によるレポート発表とその主題についての感想や意見を述べてもらう。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、テキストpp. 50-51のskit, p. 51のpointをテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。</p> <p>【事後学習】授業後3時間、プリント配分の《まとめのお話表現（1）》を正確に音読しながら授業内口頭試験に備える。テキストp. 52-53の《漢数詞やその教え方などの用例》を正確に音読しながら書き写し、テキストp. 54の練習問題を解答して課題を提出する。</p>
第11回	<p>テキスト第10課 まとめのお話表現（2）／固有数字の用例／学生のレポート発表&意見交換4</p> <p>プリント配分の《まとめのお話表現（2）》について紹介し、その会話文の発音の練習を行う。《固有数詞やその表し方などの文法》についての説明を行う。韓流ドラマの紹介を行う。学生によるレポート発表とその主題についての感想や意見を述べてもらう。</p> <p>【事前学習】授業前1時間、プリント配分の《まとめのお話表現（1）》を正確に音読しながら授業内口頭試験に備える。テキストpp. 56-57のskit, p. 57のpoint, pp. 58-59の《固有数詞やその表し方》をテキスト付CDで聴きながら発音や抑揚を予習する。</p> <p>【事後学習】授業後3時間、プリント配分の《まとめのお話表現（2）》を正確に音読しながら授業内口頭試験に備える。テキストp. 54の練習問題を解答して課題を提出する。</p>
第12回	<p>まとめ・授業内口頭試験（会話）</p> <p>プリント配分のまとめのお話表現（1）（2）をもとに口頭試験として先生と学生の対面で聞いて話してもらおう。ただし、その口頭試験を待つ学生や終わった学生はプリント配分のシートワークを書いてもらう。</p> <p>【事前学習】授業前3時間、プリント配分の《まとめのお話表現（1）（2）》を正確に音読しながら授業内口頭試験に備える。</p> <p>【事後学習】授業後1時間、プリント配分のシートワークを書いて提出する。</p> <p>復習や授業についての意見交換</p> <p>講義で学んだことをもとにハングル文字の母音と子音の文字についてのまとめの復習を行う。韓国語を学んでの感想や授業についての意見を述べてもらう。</p>
第13回	<p>【事前学習】授業前3時間、プリント配分の《まとめのお話表現（1）（2）》を正確に音読しながら授業内口頭試験に備える。</p> <p>【事後学習】授業後1時間、プリント配分のシートワークを書いて提出する。</p>

	<p>第14回 韓国映画鑑賞および意見交換（前編） 韓国映画を鑑賞しながら、歴史的文化的背景についてのコメントを行う。映画鑑賞後、その感想や意見を述べてもらう。</p> <p>【事前学習】授業前2時間、講義で学んだことをもとにハングル文字の母音と子音の文字について復習を行い、定期試験に備える。 【事後学習】授業後2時間、講義で学んだことをもとにハングル文字の母音と子音の文字について復習を行い、定期試験に備える。</p> <p>第15回 韓国映画鑑賞および意見交換（後編） 韓国映画を鑑賞しながら、歴史的文化的背景についてのコメントを行う。映画鑑賞後、その感想や意見を述べてもらう。</p> <p>【事前学習】授業前2時間、講義で学んだことをもとにハングル文字の母音と子音の文字およびプリント配分のシートワークの会話文の正確な音読と書きを復習し、定期試験に備える。 【事後学習】授業後2時間、講義で学んだことをもとにハングル文字の母音と子音の文字およびプリント配分のシートワークの会話文の正確な音読と書きを復習し、定期試験に備える。</p> <p>第16回 定期試験（筆記：ハングル文字） プリント配分の終業日の会話文についての紹介を行い、その会話文の発音の練習を行う。その会話文に基づいて過去形についての文法の説明を行う。講義で学んだことをもとに期末テストとしてハングル文字の母音と子音を書いてもらう。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	姜英淑外5人著『楽しく学ぶ ハングル1』白帝社
参考書	入佐信宏・文賢珠著『よくわかる 韓国語STEP1』白帝社 木内明著『基礎から学ぶ 韓国語講座 初級』国書刊行会
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験（ハングル文字と会話文）40%—定期試験:30% 授業内数回の小テスト10% ・口頭試験（授業内:自己紹介等まとめの会話文）10% ・課題提出（会話文とハングルに関する事後学習）20% ・韓国文化についてのレポート提出(A4用紙1—2枚)20% ・授業への参加度（遅刻や私語等減点）10%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身につける意欲をもつ。</p> <p>【 】2. 情報化社会に対応するために、高い倫理性を備えた情報機器の操作能力を習得する。</p> <p>【 】3. 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学等の基礎的な教養を習得することで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばす意欲をもつ。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の語順は日本語とほとんど同じなので、初めての学習者でもわかりやすい。 ・授業中に発音練習、レポート発表&意見交換などに積極的に参加すること。 ・授業内容の変更がある場合がある。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後、教室で質問の受け付けをする。 （仮）・メールで質問に答える。（メールアドレスは、初回授業でお知らせします）
課題に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題及び授業内の小テストは評価後、授業内でその都度返却する。

講義科目名称： スペイン語

授業コード：

英文科目名称： Spanish

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
又吉 パトリシア			
授業形態：演習	ナンバリング：FLS112901		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>① 初めてスペイン語を学ぶ学生がスペイン語の基礎文法を習得し、簡単な文と作文を書けるようになる。</p> <p>② 口頭で受け答えに慣れ、会話や自己紹介を発表ができるようになる。</p> <p>③ スペイン語圏の国々の事情及び文化などに関する入門的な知識を学び、異文化理解を深めることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>世界のスペイン語を話す人口は現在およそ5億人以上といわれ、スペインだけでなくラテンアメリカの19の国々でも公用語として使用されている。特に沖縄県では多くの移民を中南米へ送り出したという歴史的な理由から、今日でも経済的、文化的な交流が活発に行われている状況にある。講義では教科書だけではなく、副教材として歌や映像などを使って、スペイン語圏の世界を紹介する。</p>
授業計画	<p>第1回</p> <p>iBienvenidos al mundo del español! スペイン語の世界へようこそ!</p> <p>① オリエンテーション：授業の進め方、注意点と評価法の説明する。</p> <p>② QUIZで世界におけるスペイン語、スペイン語圏の国々、沖縄と中南米諸国との関係を学習する。</p> <p>【事前学習】 シラバスと授業ルーブリックをよく読む。</p> <p>【事後学習】 テキストのpp. 58-59スペイン語圏の国々と首都のスペイン語の読み方またそれぞれの国の位置と国旗も暗記する。</p> <p>第2回</p> <p>El alfabeto y la pronunciación del español スペイン語のアルファベットと発音 (Introducción)</p> <p>① スペイン語のアルファベットを覚える。(p. 7)</p> <p>② スペイン語の綴りを見て、正しく発音をとイントネーションを身に着ける。(p. 7~9)</p> <p>③ スペイン語のアクセントのルールを学ぶ。(p. 9)</p> <p>【事前学習】 スペイン語のアルファベットと発音についてインターネットで調べる。テキストのp. 7-9の単語の読み方を考え、音読する。</p> <p>【事後学習】 スペイン語のアルファベットと発音について復習する。テキストのp. 9の練習問題を解く。</p> <p>第3回</p> <p>Saludos y frases básicas あいさつと基本表現</p> <p>① 前回授業で学んだスペイン語の発音とイントネーションに注意しながら教室内と日常生活で使う基本表現を覚える。(p. 6)</p> <p>② ペアーであいさつの会話練習する。(p. 6)</p> <p>【事前学習】 テキストのp. 6を予習する。インターネットでスペイン語のあいさつと基本表現の動画をみて声を出しながら一緒に練習する。</p> <p>【事後学習】 クラスメイトとできるだけスペイン語であいさつを交わす練習する。スペイン語のアルファベット、発音、アクセントのルールとあいさつを暗記する。</p> <p>第4回</p> <p>①テスト1 ② ¿De dónde eres? 君はどこ出身ですか? (Lección 1)</p> <p>① テスト1 (アルファベット、発音、アクセントと基本表現)</p> <p>② 主格人称名詞を覚える (p. 10)</p> <p>③ 英語のBE動詞をと比べながらスペイン語のSER動詞の使い方と活用に慣れるようになる。(p. 10)</p> <p>④ 自己紹介を言う又相手を紹介する (SER動詞+名前、国と国籍、職業) (pp. 10~13)</p> <p>【事前学習】 アルファベット、発音、アクセントと基本表現のテストのため勉強する。(テキストpp. 6-9とpp. 58-59)</p> <p>【事後学習】 テキストのp. 10の主格人称名詞とSER動詞の活用を声を出しながら暗記する。テキストのp. 94-112の語彙集から国籍と職業に関する単語を探し、ノートにリストを作成をする。インターネットで有名人の写真を探し、スペイン語で紹介を言えるように準備する。</p> <p>第5回</p> <p>Un café y dos churros, por favor. コーヒとチューロス2本を下さい。(Lección 2)</p> <p>① スペイン語の名詞の性の区別を見分ける。(p. 14)</p>

- ② 名詞の複数形の作り方を学ぶ。(p. 14)
- ③ 名詞の定冠詞と不定冠詞の作り方と使い方の違いを学ぶ。(p. 14)
- ④ 数字0～15覚える。(p. 74)
- ⑤ バル、レストラン、お店等での注文の会話練習する。

【事前学習】テキストのp. 94-112の語彙集から食べ物と飲み物に関する単語を探し、性別に分けてのリストを作成する。
インターネットでスペインバルのメニューを調べる。

【事後学習】テキストのp. 16の練習1-3を解く。
名詞の性と数をインターネットで調べて予習する。
数字0～15を暗記する。(テキストのp. 74)

第6回

- ¿Dónde está la universidad? 大学はどこにありますか? (Lección 2)
- ① ESTAR動詞の直接法現在形の活用を覚える。(p. 14)
 - ② 場所を表す単語、お店や公共施設などの語彙を覚える。(p. 14と17)
 - ③ 場所を尋ねたら説明するの会話練習する。(p. 14と17)

【事前学習】テキストのp. 14のESTAR動詞の活用を暗記する。
テキストのp. 17の練習2にあるお店と公共施設の意味、発音と性の区別を調べる。

【事後学習】テキストのp. 16の練習4-6を解く。
テキストのpp. 14-17を復習する。

第7回

- ¿Qué hay cerca de la universidad? 大学の近くに何がありますか? (Lección 2)
- ① 存在を表す:HAY動詞を使って練習する。(p. 17)
 - ② ESTAR動詞(所在)とHAY動詞(存在)の使い分けを学ぶ。(pp. 14～17)

【事前学習】テキストのp. 17の練習3の語彙の発音、意味、性の区別を調べる。

【事後学習】ESTAR動詞とHAYの使い分けをインターネットの動画を見て確認する。

第8回

- ① テスト2 (Lección 1 y 2) ② ¿Qué fecha es hoy? 今日の日付は何ですか?
- ① テスト2 (Lección 1 y 2: pp. 10-17)
- ② 数字: 16～100、曜日、月の語彙を覚える。(p. 74)
- ③ 日付、誕生日、電話番号などを尋ねる会話練習する。

【事前学習】Lección 1と2をテストのために予習する。(テキストのpp. 10-17)

【事後学習】数字16～100、曜日、月の語彙を暗記する。(テキストのp. 74)
日付、誕生日、電話番号などを口頭で言えるように練習する。

第9回

- ¡Qué dulce y rico! 何と甘くておいしい!
- ① 性格や品質表す形容詞を覚える。(p. 18)
 - ② 形容詞の位置と名詞の性数に合わせての変化の仕方を学ぶ。(p. 18と20)
 - ③ 簡単な感嘆文や物・人の特徴などを述べる表現の会話練習する。

【事前学習】テキストのp. 18の2と3の形容詞の意味を調べる。SER動詞とESTAR動詞の活用を復習する。
テキストのp. 30の3の感嘆文の作り方を覚える。

【事後学習】テキストのp. 20の練習問題を解く。SER動詞|とESTAR動詞をインターネットで調べ、使い分けを確認する。
人や物の紹介を口頭で言えるように練習する。

第10回

- La habitación es pequeña pero está ordenada. 部屋は小さいけど整頓されている。
- ① SER動詞とESTARの活用方を復習する。(p. 18)
 - ② SER動詞(性質)とESTAR動詞(一時的な状態)の使い分けを学ぶ。(pp. 18～21)違いと使い分けを学ぶ。(pp. 18～21)

【事前学習】テキストのpp. 18-21の単語と表現を復習する。
テキストのp. 21の練習を予習する。

第11回

- 【事後学習】SER動詞、ESTAR動詞動詞とHAYを使って例文15文を書いて、次の講義に提出する。
¿Cómo es tu ciudad? あなたが住んでいる町はどんな街ですか?
- ① SER動詞、ESTAR動詞とHAY動詞の使い分けの再確認
 - ② 所有形容詞と名詞の性と数に合わせての変化を学ぶ。(p. 72)
 - ③ 家族のに関する語彙を覚える。(プリント)
 - ④ 人や場所などの説明する会話をする。(p. 21とプリント)

	<p>【事前学習】 インターネットで所有形容詞について調べ、テキストのp.72の表を見て覚える。テキストのpp.94-112の語彙集から家族に関する単語を探し、ノートにリストを作成する。</p> <p>【事後学習】 家族の紹介を口頭で言えるように練習する。</p> <p>第12回 ① テスト3 (Lección 3) ② ¿Qué estudias en la universidad? 大学で何を勉強していますか? ① テスト3 (Lección 3: SER, ESTARとHAY動詞、形容詞、所有形容詞) (pp.18~21と72)</p> <p>② -ar動詞の直説法現在形の活用を覚える。(p.22と24)</p> <p>③ -ar動詞を使って相手に質問する練習する。(p.25)</p> <p>【事前学習】 Lección 3: SER, ESTARとHAY動詞、形容詞、所有形容詞 (テキストのpp.18~21と72) のテキストのために復習する。</p>
	<p>【事後学習】 テキストのp.22の-ar動詞の意味、書き方と活用を覚える。テキストのp.22の前置詞の意味と使い分けを覚える。テキストのp.24の練習1-3の練習問題を解く。</p> <p>第13回 Mi familia vive en la Isla de Kumejima. 私の家族は久米島に住んでいます。</p> <p>① 前回の授業で学んだ-ar動詞の直説法現在形の活用を確認する。(p.22~25)</p> <p>② -er動詞と-ir動詞の直説法現在形の活用法覚える。(p.26~28)</p> <p>③ 前置詞を学び、短い文を書き練習する。(p.22とプリント)</p> <p>④ 日常生活や家族などについて尋ねる会話練習をする。(プリント)</p> <p>【事前学習】 テキストのp.73の疑問視を覚える。テキストのpp.94-112の語彙集から言語に関する単語を探し、リストを作成する。テキストのp.26の-er動詞と-ir動詞の意味、書き方と活用を覚える。</p> <p>【事後学習】 テキストのp.28の練習1-4の練習問題を解く。</p>
	<p>第14回 Estudiamos español en la universidad los miércoles. 毎週水曜日大学でスペイン語を勉強します。</p> <p>① -ar動詞、-er動詞と-ir動詞の直説法現在形の活用を確認する。(pp.26~29)</p> <p>② 学んだ文法項目、語彙を使ってスペイン語で日常生活について作文を書く。</p> <p>【事前学習】 規則動詞の活用を声を出して覚える。規則動詞を使って簡単な質問と答えの練習する。</p> <p>【事後学習】 Lección1-5で学んだ文法項目また語彙を使って自己紹介また家族の紹介を作文(20文)書いて次回に提出する。</p> <p>口頭テストのための準備をする。</p>
	<p>第15回 ① Examen de conversación 会話テスト ② Repaso 復習</p> <p>① 授業で学んだ文法項目、語彙などを使ってペアで会話する。</p> <p>② Lecciones 4と5の文法項目や語彙の復習練習する。(p.22~29)</p> <p>③ テキストのpp.68-71のスペイン語検定試験6級の対策問題を解く。</p> <p>【事前学習】 口頭テストのための予習する。Lecciones 4と5 (テキストのpp.22~29)の復習</p> <p>【事後学習】 期末テストのために準備する。</p>
	<p>第16回 期末試験 (Lecciones 4 y 5) Lecciones 4と5のテスト (-ar動詞、-er動詞と-ir動詞の直説法現在形の活用 pp.22~29)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 { }</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 { }</p> <p>3) ICTの活用 { }</p> <p>4) 初年次教育 { }</p>
テキスト	<p>1. 『OKINAWA LATINA』スペイン語への架け橋 (沖縄県スペイン語教材開発研究会)(¥1,000)</p>
参考書	<p>1. 講師作成資料</p> <p>2. インターネットでスペイン語に関するHP、画像、映像などを検索し、勉強の参考や復習にする。</p> <p>3. 「スペイン語ミニ辞典」宮城・宮本編 白水社(¥2,800)、またはスペイン語電子辞書</p>
評価方法	<p>最終評価は次の点の合計点とする:</p> <p>1. 筆記テスト4回とQuiz(60%)</p> <p>2. 会話テスト(10%)</p> <p>3. 宿題及び課題の提出 (20%)</p> <p>4. 授業態度と参加 (10%)</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上:到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p>

	<p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身につける意欲をもつ。 【 】 2. 情報化社会に対応するために、高い倫理性を備えた情報機器の操作能力を習得する。 【 】 3. 専門領域の学びを支える「コア科目」（キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー）をはじめ、人文科学、社会科学等の基礎的な教養を習得することで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばす意欲をもつ。</p>
履修上の注意	<p>1. ノート、筆記用具、テキストと出席表を毎回持参すること。 2. 配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。 3. 毎回QUIZまた小テストを実施するため宿題、予習、復習等をこなすこと。 4. 授業中はマナーを守ること（携帯電話・スマートフォン、タブレット等の使用禁止、遅刻しないこと、居眠りと飲食の禁止） 5. 授業総時間数の1/3（5回）以上欠席した場合は単位を与えない。 6. その他は最初の授業のオリエンテーションで説明する。</p>
オフィスアワー	<p>質問・相談などは、授業終了後にすること。 注意：メールでの対応は行いませんので、必ず授業終了後に受け付ける。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>授業内で行う。</p>

講義科目名称： コンピュータリテラシー

授業コード：

英文科目名称： Computer Literacy

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	2単位(1-1)	必修科目
担当教員			
内間清晴・高江洲義尚			
授業形態：講義・演習	ナンバリング：ITL111301		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>PCの基礎的操作方法を習得させる。具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法等が実践的に修得できる。</p> <p>(1) 基本的な情報倫理が理解でき、情報化社会へ倫理感を持って参加できる。</p> <p>(2) 電子メールの送受信・転送設定等ができる。</p> <p>(3) 200字以上／1分間のタイピング能力が身につけることができる。</p> <p>(4) インターネットを活用し、基礎的な情報収集ができる。</p> <p>(5) ワープロによる文章の作成ができる。</p> <p>(6) 表計算ソフトによる数値情報の分析ができる。</p>
授業の概要	<p>① 本授業では、ワープロソフト、表計算ソフトに実際に触れながら、各ソフトウェアの操作方法を修得する。授業内容は、文書の作成、基本的なデータの集計などを行う実技形式での授業となる。ソフトウェアとしては、Microsoft社のワープロソフトであるWord、表計算ソフトであるExcelを使用する。</p> <p>② 早くて確実な文字入力ができるように。毎授業の最初の20分間はミカタイプソフトを使用し、タイピングの練習を行う。 (トータルで3時間以上のタイピング練習を行い、1分間で200文字以上の入力速度を目標に取り組んで下さい。)</p> <p>* 毎回の演習内容を復習し次回の演習の予習を行う。(15回分の講義内容は指定フォルダ内にあります。)</p> <p>* 各講義の初めに、プロジェクターを使用し、講義内容の説明を行う。</p> <p>* 講義時において、教師と学生の双方向(1対1)にコミュニケーションができるコールシステムを使用して、学生の質問に答える。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：①使用登録・パスワードの設定 ②電子メールの設定 ③Windowsの基本操作 ④基本的な情報倫理 ⑤タイピング</p> <p>① PC(パーソナルコンピュータ)へのログイン、パスワードの設定方法、電子メールの使用の方法、PCのOS(オペレーティングシステム)であるWindowsの基本操作、WordやExcel等のソフトウェア、デスクトップ、プリンター等のハードウェア、インターネットでの検索方法を学ぶ。また、情報が氾濫する現代社会における基本的な情報倫理について学習する。</p> <p>② 文字入力が早くて確実に行えるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。</p> <p>【事前学習】授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>第2回 パソコンの概念：①OSの種類 ②ソフトウェアとハードウェア ③フォルダの作成 ④基本的な文書作成</p> <p>① 文字入力が早くて確実に行えるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。</p> <p>② WindowsやMac(マッキントッシュ)等のOS(オペレーティングシステム)の種類、WordやExcel等のソフトウェア、デスクトップやプリンター等のハードウェアについて学ぶ。また、メモ帳を利用して基本的な文書を作成し、学生各自のUSB内に作成したフォルダへの保存方法を学習する。</p> <p>【事前学習】授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>第3回 Word2016：①Wordの基本操作 ②文章の作成および保存 ③ファイルの種類</p> <p>① 文字入力が早くて確実に行えるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。</p> <p>② Word2016を起動させ、ページレイアウトを設定し文書を作成する。作成した文書のいろいろな保存方法およびファイルの種類を表す拡張子について学習する。</p> <p>【事前学習】授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>第4回 Word2016：文字のデザイン</p> <p>① 文字入力が早くて確実に行えるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。</p> <p>② 入力した文書を見やすくするためのフォントサイズの変更、カラーおよびスタイルの変更、文字列の変更、文字の下線、網かけ、段落番号、行間の設定等について学習する。</p> <p>【事前学習】授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>第5回 Word2016：ビジュアル要素の設定(チラシ作成)</p> <p>① 文字入力が早くて確実に行えるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。</p> <p>② 基本デザイン、罫線による行全体のデザイン、テキストボックスでの文字デザイン、画像の挿入および編集について学習しチラシを作成する。</p>

第 6 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Word2016：可能性の高いデザイン（ポスター作成）</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② テキストボックスでのレイアウト、均等割付け、割注等の設定、図形の挿入、テキストボックスのスタイル変更およびモニターの画像の文書内貼付け等について学習しポスターを作成する。</p>
第 7 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Word2016：段組みおよび縦書きレイアウト</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② 入力した文書の段組み、ヘッター・フッターの設定、縦書き2段組みレイアウトについて学習する。</p>
第 8 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Word2016：表の作成および編集</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② 表の作成し、行と列の挿入およびセルの分割・結合、表のテキストボックス化等の表の編集方法について学習する。</p>
第 9 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Word2016：ハガキのデザインおよび名刺の作成</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② ページをハガキや名刺サイズに設定し、挨拶文の自動入力の方法や名刺ラベル作成方法を学習し学生各自の名刺を作成する。</p>
第 10 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Excel2016：Excelの基本操作およびデータ入力</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② Excel2016を起動し、画面の名称と機能について学び、実際にデータを入力し、セル幅・高さの変更および数値の表示形式の変更等について学習する。</p>
第 11 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Excel2016：計算式および関数設定</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② 計算式（数式）の入力方法、計算式のコピーおよび関数設定方法を学び、関数を使用しているワークシート内の計算方法（合計、平均、最大値および最小値）を学習する。</p>
第 12 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Excel2016：データの条件設定</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② データに条件を設定し判断や判別をさせる方法、条件付き書式の設定およびIf関数の使い方等を学習する。</p>
第 13 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Excel2016：集計表およびグラフ作成</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② セルにデータを入力し、合計と平均等の同時設定や絶対参照の設定方法について学び、入力したデータから棒・円グラフ等の作成方法を学習する。</p>
第 14 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Excel2016：データの並べ替えおよびデータ検索</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② データベースの構造について学び、データベースの並べ替え、データの検索および抽出方法を学習する。</p>
第 15 回	<p>【事前学習】 授業で指示された次回授業の例題を行う。 【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。</p> <p>Excel2013：予想シート</p> <p>① 文字入力及早くて確実に進めるために、毎回の演習の最初の20分間はミカタイプソフトを使用しタイピングの練習を行う。 ② Excel2016から新機能として追加された予想シートの作り方を学び、作成した予想シートを</p>

	使つての将来の値の求め方、相関の求め方について学習する。
	【事後学習】 授業で学んだ演習内容を再度行う。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【 <input type="checkbox"/> 】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 <input type="checkbox"/> 】 3) ICTの活用 【 <input type="checkbox"/> 】 4) 初年次教育 【 <input type="checkbox"/> 】
テキスト	『例題35+演習問題65でしっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint標準テキスト(office 2016 対応版)』
参考書	よくわかるWordデータ, よくわかるExcelデータ
評価方法	課題 ……80点 タイピング能力 ……10点 授業への参加意欲 ……10点
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 <input type="checkbox"/> 】 1. 建学の精神を理解し、またグローバル世界において平和を構築するために必要な良心と教養力を積極的に身につける意欲をもつ。 【 <input type="checkbox"/> 】 2. 情報化社会に対応するために、高い倫理性を備えた情報機器の操作能力を習得する。 【 <input type="checkbox"/> 】 3. 専門領域の学びを支える「コア科目」(キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー)をはじめ、人文科学、社会科学等の基礎的な教養を習得することで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を伸ばす意欲をもつ。
履修上の注意	・各自USBメモリーを準備すること ・演習の授業です。受け身にならず、積極的に課題に取り組んで下さい。 ・毎回の演習内容を復習し次回の演習の予習を行う。(15回分の講義内容は指定フォルダ内にあります。)
オフィスアワー	内間：金曜日(14:40～16:00) 内間研究室 上記の時間以外でも対応可能(事前予約必要) 高江洲：(仮) 授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	提出された課題は担当教員がチェックし、提出した課題の内容が不十分な場合には、改善点等を説明し再提出してもらいます。